

平成26年度 校区外部評価

# 最終自己評価表（最終報告）

【成果・取組指標に対する評価と評定コメント】

学校名 伊 藤 学 園

# 評価項目1 基礎学力の定着

<b>本校の基本的な考え方</b> <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	○小中一貫教育要領で示されている基礎的・基本的な知識、技能の習得に力を入れるとともに、「理解」「学びあい」「教室の雰囲気」を大切に授業を展開する。 ・5年生以上の教科担任制、加配教員や区配当の講師・指導助手を活用した少人数授業、習熟度別学習、チームティーチング実践する。 ・市民科と各教科を関連させ、「学習の決まり」を基に学習規律の徹底を図る。 ・校内研修を活用し授業力を高めるシステムを構築するとともに、ベテラン、若手ともにそれぞれの授業力を高めていく。 ・学力の分散化を踏まえて、家庭への啓発を強めるとともに、個に応じた指導と家庭学習に関するきめ細かい指導を行う。 ・英語検定、数学検定などについて、児童・生徒や保護者に周知し、積極的に取り組ませる。					
	評価指標 (成果指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定について教員のコメント <small>*コメントは全員のものではありません。</small>	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
① 東京都学力の向上を図るための調査・全国学力学習状況調査において各教科の平均を5ポイント以上上回る。品川区学力定着度調査では、区の平均を上回る。	A11% B82% C 7% D 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科の定期考査の問題検討を行った。</li> <li>個に応じた指導について徹底できない。</li> <li>授業中は、手厚く授業できていると考えるが、居残り等の補充時間が取りにくい。</li> <li>5年都学力調査 国+2.8%、社+1.7%、算+5.3%、理+9.9% 全体的に健闘したと思うが、算数以外はクリアできていない。</li> </ul>	①評価指標の内容として、取組でよいのか。取組であるのならもっと高くなるのでは。教員が取組指標も成果指標として捉えているのではないか。 ②保護者へのアンケートだけでなく、児童・生徒のアンケートは取れないものか。	①数値による成果指標には無理があるが、数値的成果を求めない取組指標では不十分である。客観的な指標として、数値による取組指標も無意味ではないと考える。	成果指標目標を完全に達成しているわけではないが、概ね満足できる成果が上げられたと、考えている。家庭学習においても習慣化させる目的で1年生から取り組んでいる。しかし、数値的には十分定着しているといえない。家庭にも働き掛けていくことが、不可欠である。	
② 学校評価アンケートの項目3『授業は分かりやすく、児童・生徒の実態に合わせた工夫がなされていますか』で、肯定評価を80%以上にする。	A11% B80% C 7% D 2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を捉えきれていない。</li> <li>生徒にとって分かりやすい授業と分かりにくい授業との差が激しいことが課題。</li> </ul>	③大一小では、学力面で二こぶ型(二極化)が標準曲線になったのだが、授業規律が守られているわけではない。学校でつけた学力なのか塾力なのか疑問である。	②保護者の意見だけでなく、児童生徒からのフィードバックは必要だと考えるので、アンケートという形でなくても、何か取り組んでいきたい。	なかなか学力が定着しない児童生徒に対して、もっと効果的な働きかけを工夫していかなければならない。児童生徒の実態を踏まえての指導方法を検討していきたい。	
③ 品川区学力定着度調査・東京都学力の向上を図るための調査・全国学力学習状況調査での家庭学習への取り組みについての項目で肯定評価を60%以上にする。	A 5% B90% C 5% D 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の意識は高まっているが、部活に欠かれる時間が多いと考える。疲れているのではないか。</li> <li>校内研究や3年次までの若手教員の授業観察を積極的に行った。</li> <li>宿題を出しチェックを行っているが、提出しない生徒が目立つ。</li> </ul>	④学力の分散化には、生活力と関係があると思われる。	③授業規律があつての学力である。教員も児童生徒もそのことを再認識する取組が必要である。	なかなかな学力が定着しない児童生徒に対して、もっと効果的な働きかけを工夫していかなければならない。児童生徒の実態を踏まえての指導方法を検討していきたい。	
④		<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間以上取り組む児童は、32.1%(塾の除く)、30分～1時間32.1%、30分以上64.2%</li> </ul>		④生活力と学力に関しては大いに関係があるので、家庭にも協力を得ながら、授業改善に取り組む。		

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目2 社会性・人間性の育成

<b>本校の基本的な考え方</b> <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	○市民科を中心として、全教育活動を通して、児童・生徒一人一人が自らの在り方や生き方を自覚して、困難に負けることなく社会の中でよりよく生きていくための確かな実践力と、社会貢献できる資質・能力を養う。 ・9年間を見通した市民科年間計画に基づき、児童・生徒の実態を踏まえた重点単元を設定し、市民科学習を推進する。 (いじめ防止、コミュニケーション能力の育成、あいさつ、礼儀、キャリア教育など) ・施設一体型小中一貫校の良さを生かした、1から9年生までの全校一致の厳しく親身な生活指導体制を確立する。 ・スクールカウンセラーや関係諸機関と連携して、いじめ防止や不登校、特別な支援を必要とする児童・生徒などに組織的に対応する。 ・学校行事、生徒会活動、部活動や、合同移動教室を含めた異学年交流行事に積極的に取り組ませて、自己有用感を育てる。 ・生活面における分散化(基本的な生活習慣や規範意識の定着のばらつき)の克服のため、家庭への啓発と個別指導を強める。				
	評価指標 (取組指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
評価		評定について教員のコメント <small>*コメントは全員のものではありません。</small>	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
① 市民科の授業を計画的に実施して、コミュニケーション能力の育成を図る。	A25% B71% C 4% D 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で使用する掲示物の作成、アンケート集約など、副担任としてできる仕事に取り組んだ。</li> <li>・アサーショントレーニングを行ったが、継続的に指導を徹底できない。市民科の計画を見直す時期かもしれない。</li> <li>・頑張っています。</li> </ul>	挨拶は、学年が上がると素直にできない面もあるようである。挨拶運動や教師からの指導もあるが結果がもう少しのようである。校内ではできても、校外では見知らぬ人には挨拶しない状況である。部活動のときなど、元気よく挨拶しているようである。	挨拶をすると、ほとんど返ってくるが、自分から挨拶するのは恥ずかしいようである。校内や知っている人には、自分から挨拶をできる児童生徒にしていきたい。	見知らぬ人への挨拶は昨今の社会情勢を見ると、難しい面がある。しかし、最低限挨拶すべき場面があり、挨拶しなければ、気持ちの面だけでなく、社会規範に反するということを指導していかなければならないと考える。
② 教師が範を示して、すべての児童・生徒が、あいさつや礼儀、場に応じた行動をできるようにする。	A33% B58% C 9% D 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は挨拶するが、生徒が答えない場合が多いのは、少々問題である。</li> <li>・指導はしているが、まだできていない。</li> <li>・体育の授業開始時に正しい姿勢づくりを指導している。</li> <li>・関係のない学年からは挨拶しても返事がないことが多い。</li> <li>・挨拶に対して返事はするが、児童生徒からは少ない。</li> <li>・きちんと学年としても取り組んでいる。</li> </ul>			
③ 教師は、発達段階に応じた授業規律を児童・生徒、保護者に示し、学校生活の中でしっかり躰けている。	A16% B75% C 7% D 2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律が浸透していかない。</li> <li>・不十分である。</li> <li>・授業において、メリハリをつけることで改善していく。</li> <li>・指導しているものの徹底しきれていないのが現状です。</li> </ul>			
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

### 評価項目3 小中一貫教育の推進

<b>本校の基本的な考え方</b> <small>(重点的な取組内容など)</small>	○施設一体型小中一貫校として、先駆的な教育を推進するとともに、大井第一・山中小学校との連携を一層強める。 ・9年間の系統的な指導計画・評価計画を作成・実施して、保護者への周知を図るとともに、PDCAのマネジメントサイクルを活用して改善を図っていく。 ・異学年交流活動を開発・充実させる。(交流授業、交流給食、合同移動教室、9年生による1年生のお世話活動など) ・学年主任会や朝の運営委員会を通して、教育活動の相互理解や児童・生徒の情報の共有化を図る。 ・学校便り、PTA広報誌、ウェブページ、学校説明会等あらゆる機会を利用して、本校の取り組みを説明し、理解を深めていただく。 ・連携校とは、6年の市民科、伊藤学園における6年の体験授業など、連携活動の創意工夫を進める。				
	評価指標 (取組指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
評価		評定について教員のコメント <small>*コメントは全員のものではありません。</small>	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
① 9年間の系統的な指導と評価を実施・工夫改善する。	A12% B72% C16% D 0%	・系統的な指導を目に見える形で示していきたい。 ・今年度は、教科部会の再編で昨年までのようにはできていないが、教員間では行えている。 ・研究等を通して改善点が明らかになりつつある。 ・1～3年生の体育にTTとして参加した。 ・7年保体担当と単元の実施状況の確認を行った。 ・音楽科としては、本年度特に和楽器を取り入れた日本の音楽授業の系統的な指導に力を入れた。	品川区として小中一貫教育は、きちんとできていると考えられる。分離型だと一貫教育と捉えにくいのでは。	小中一貫教育は、系統的な指導ができるので、一貫の良さを積極的に発信していかなければならない。地域や保護者に発信するだけでなく、一貫教育を受けている児童生徒にもその成果を十分理解させることが今後の課題であると考えます。	伊藤学園校内においては、小学校・中学校の枠を超えて系統的な指導を展開してきている。さらに、連携小学校とのかかわり方についてより一層の工夫していかなければならない。小中一貫教育の良さを発信はしているが、継続発展させて、地域・保護者・児童生徒にもわかる内容で、伝えていかなければならない。
② 保護者や地域に、小中一貫教育の意義や良さを伝える。	A12% B71% C17% D 0%	・職員側が意義や良さを十分に理解できていないところがある。 ・学年だよりで話題を盛り込むよう心掛けている。 ・音楽科としては、全国大会を通して小中一貫のよさを伝えた。また、シンポジウムに参加して意義や良さを唱えられた。			
③					
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目 4 保護者・地域との連携

<b>本校の基本的な考え方</b> <small>(重点的な取組内容など)</small>	<p>○学校・家庭・地域社会の三者が適切に役割分担し、共同で児童生徒の教育にかかわる連携・協力体制の確立を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民科と関連付けて地域行事へ参加させるとともに、職場体験など地域との連携に基づいた教育活動を充実させる。</li> <li>・ウェブページの毎日の更新と、学校便り「鐘の鳴る学舎」の月1回の発行、学校公開(年14回)、学校説明会(年2回)を実施する。</li> <li>・保護者や地域の方に、ゲストティーチャーやボランティアとして授業や行事に積極的に参加していただく。</li> <li>・あいさつや言葉遣いの指導について、保護者会やPTA運営委員会、市民科授業地区公開講座、地域の会などでアピールし、協力を要請する。</li> <li>・PTAの各機能を再確認して、役員や部員だけでなく、一般会員が協力できるシステムを構築する。</li> </ul>				
	評価指標 (取組指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
評価		評定について教員のコメント <small>*コメントは全員のものではありません。</small>	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
① 保護者・地域に対して、積極的にかかわり情報を発信する。	A25% B65% C10% D 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPや学校だよりが伝わりやすい形になっている。</li> <li>・欠席や最近の様子など、積極的にかかわりをもっている。</li> <li>・上記の内容を個人の見解としては、そこまでできていなかったように思う。</li> </ul>	PTA主催のもちつきに児童生徒や教員が参加するとともに、地域の町会も協力することは、学校・保護者・地域をつなぐ良い取組である。児童生徒が楽しくしていると、そこに大人が集まってくる。学校がPTAに働きかける取組はしていても、地域はどの程度取り込んでいるのか。	餅つき会や区民祭り、地域清掃などPTAや地域主催の行事で児童生徒は、大変お世話になっている。また、日本の文化伝統を学ぶ日や生活科の学習の中でも多くのご協力を得ている。さらに、地域独自の行事に児童生徒が参加できるようにする方法を探っていきたい。	多くの教員がPTAや地域行事に積極的に参加してきており、それとともに、児童生徒と地域とのかかわりの重要性を実感してきている。85%が学区区域から来ている伊藤学園では、町会の行事や地域センターの行事に児童生徒を積極的に参加させ、地域の一員であるという意識を育てていかなければならない。
② 保護者や地域の力を生かした教育活動を実践する。	A21% B60% C19% D 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に地域の教育力を取り入れて実践している。</li> <li>・ボランティアの活用をもっと生かしたい。</li> <li>・概ねできていると思うが、もっと活躍の場があると思われる。</li> <li>・一覧にまとめるとできています。あとはどうアピールするかだと思う。</li> </ul>			
③					
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目5 環境整備・美化

<p><b>本校の基本的な考え方</b> (重点的な取組内容など)</p>	<p>○児童・生徒が触れる環境は、隠れたカリキュラムとしてその成長に大きな影響を与える。児童生徒の健全育成の視点からも、環境・美化の維持向上に、全教職員で速やかに全力で取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境を整備し、学習成果を発表する掲示物・展示物を工夫するとともに、安全にかかわる掲示についても配慮する。</li> <li>・自分たちの学校は自分たちできれいにするという意識を定着させ、計画的な清掃指導と「伊藤学園クリーンアップ！」(美化点検月間)を実施する。</li> <li>・全教職員による月始め安全点検を実施して、危険箇所・修理箇所を早期に発見し、安全確保と環境整備を進める。</li> <li>・用務主事、ビル管理会社と連携して、グリーンシアターや屋上等の植栽管理を適切に進める。</li> </ul>				
<p>評価指標 (取組指標)</p>	<p>最終自己評価</p>		<p>校区外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>	
	<p>評価</p>	<p>評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。</p>	<p>自己評価についてのコメント</p>	<p>校区外部評価についての教職員の意見</p>	<p>校長の態度表明</p>
<p>① 清掃がきちんと行われ、校内の美化が行き届いている。</p>	<p>A30% B63% C 7% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より、美化点検を生徒たちで実施し始めたことは、大きな一歩である。</li> <li>・生徒はよくやっているが、細部に目が届いていないため、きめ細かな指導が必要。</li> <li>・用務主事、清掃業者の力によるところが大きい。</li> </ul>	<p>環境整備・美化については特に問題がない。</p>	<p>児童生徒が積極的に清掃活動に取り組む姿が多く見られるようになった。用務主事や清掃業者がいつもきれいにしてくださっているからこそ、きれいに使うように心がけるようになってきていると思われる。</p>	<p>環境美化の取り組みでは、様々な場面で児童生徒の取り組みを認めた結果、主体的に活動する姿が見られるようになってきた。今後も整っている状態が普通の状態であるように意識づけ、どの教室も整った環境で学校生活を送ることができるように指導していく。</p>
<p>② 季節や行事等に配慮した掲示物が工夫され、安全な学習環境が整えられている。</p>	<p>A32% B56% C12% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正門横に大きな掲示板を設置したのは良かった。</li> <li>・体育では、単元の始めに安全な用具の選び方、使い方を指導している。</li> <li>・目標や表彰状など工夫しているが、さらに工夫が必要だと実感している。</li> <li>・掲示物は統一性重視なので、工夫はそこまでしていないが、学習環境としてはきちんと整えている。</li> </ul>			
<p>③</p>					
<p>④</p>					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目6 いじめ防止に関する取組み

<p>本校の基本的な考え方</p>	<p>○いじめは絶対に許さないという基本姿勢を児童・生徒・保護者に示し、いじめのない児童・生徒の自主性に富んだ教育活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民科において、毎月末に「いじめ防止プロジェクトin伊藤学園」を実施して、いじめが人権侵害であることを理解させるとともに、スキルトレーニングを通してよりよい人間関係を作るための方法を考えさせ、発信できるようにさせていく。</li> <li>・月1回の無記名アンケートから学級の雰囲気把握・分析するとともに、学期に1回の記名アンケートとその後の個人面談を行い、早期発見と早期解決を目指す。</li> <li>・市民科モデル実践校として、いじめ防止プログラム(スクールバディ・プログラム)を4・7年、hyperQU(学級集団アセスメント)を4・7年、CAP(暴力防止プログラム)を7年で実施する。7・8年生有志を対象に、スクールバディ養成研修を実施する。</li> <li>・地域健全育成運営協議会を年3回実施し、保護者や地域と連携して、いじめをなくす取組について理解と協力を得て、地域ぐるみでいじめを根絶する風土作りを行う。</li> </ul>				
	<p>評価指標 (取組指標)</p>	<p>最終自己評価</p>		<p>校区外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>
	<p>評価</p>	<p>評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。</p>	<p>自己評価についてのコメント</p>	<p>校区外部評価についての教職員の意見</p>	<p>校長の態度表明</p>
<p>① 記名アンケートと面談を実施して、早期発見、発見時組織的な対応をする。</p>	<p>A60% B40% C 0% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対応はしているが、効果がなかなか上がってこない。</li> <li>・早期発見は不十分であるが、即時対応はできている。</li> <li>・漏れが出てしまっているため、敏感になっていきたい。</li> <li>・きちんと取り組んでいる。</li> </ul>	<p>①いじめ防止については、町会ではよくわからないと捉えているが、地域健全育成運営協議会で取り上げていることを教員は評価している。</p> <p>②地域に住んでいて、校庭にスクールバディの鮮やかな旗が掲揚されていることは、学校全体でスクールバディの取組を行っていることが感じられる。</p>	<p>①スクールバディ、挨拶運動、やさしい言葉キャンペーンなど、様々な取組を伊藤学園では行っている。町会の掲示板やホームページに掲載するなど、地域への発信にも取り組んでいく。</p>	<p>教職員はいじめ防止に対して非常に強い思いを持って、児童生徒の指導に当たっている。そのいじめ防止に対する取組を委員の皆様にも評価いただいたのは、成果であると考えている。いじめ防止の成果をさらに高めていくために次の取り組みを考えていく。また、教職員の組織が変わっていても、いつの時代でも「いじめ防止」を最優先に考える教員となるよう、指導していく。</p>
<p>② 保護者と連絡を取り合い、いじめの早期発見、早期対応に努める。また、地域とも連携した取組を進める。</p>	<p>A40% B60% C 0% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対応はしているが、効果がなかなか上がってこない。</li> <li>・きちんと取り組んでいる。</li> <li>・地域健全育成運営協議会などで地域関係者と話し合いをしている。</li> </ul>	<p>③スクールバディがいじめ防止の啓発運動を行っているのは評価に値する。相談件数はどれくらいなのか？→現在は0である。大崎中や藤沢市のバディサミットでもスクールバディを実施している中学校に確認したが、やはり相談件数は少なく、啓発運動に力を入れているのが実態である。「相談できる場所がある」と思ってもらえることが大事である。</p>	<p>②スクールバディの取組など、評価していたのは成果である。</p>	
<p>③ 未然防止のための市民科授業を毎月行う。</p>	<p>A32% B60% C 8% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できていないときがある。</li> <li>・いじめ防止プロジェクトということでアサーションなど、スキル向上に取り組んでいる。さらに指導方法の工夫が必要。</li> <li>・コミュニケーションの取れない子供が増えているように感じる。グループエンカウンター等の取組も必要。</li> </ul>		<p>③児童生徒同士の相談業務には難しさがあるが、存在が安心につながっているため、今後も継続していく。</p>	
<p>④ スクールバディの活動を充実させる。</p>	<p>A19% B63% C16% D 2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士の相談は、何件ぐらいあったのか。</li> <li>・人数が少ないようであるが、活動が広がっていきやすいと思う。</li> <li>・担当の先生方は、とても頑張っていると思う。研修を通して有志生徒が育っていることが、より分かるようになっていく。</li> <li>・養成研修を見に行けなかったため、今後見学したい。</li> <li>・様々な取組を通して、校内での認知度を高めている。</li> <li>・スクールバディの振り返りが必要だと感じている。協力していきたいです。</li> </ul>			

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

<p>本校の基本的な考え方</p>		<p>○施設一体型小中一貫校だからこそできる教科・市民科指導を創意工夫するとともに、異学年交流の内容の充実を図る。          ・学力向上のために、教科や学年分科会で、教科指導の工夫や授業技術の向上を目指した研究を進める。          ・市民科モデル実践校として、いじめ根絶を目指した心の教育のための研究を行い、それを進める中で、PDCAのマネジメントサイクルを活用して、授業とカリキュラムの改善を図っていく。          ・学校行事と異学年交流活動等についても同様に、マネジメントサイクルを活用した見直しと充実を図り、児童、生徒、教職員、保護者、地域の方が充実感を味わえるものにする。</p>				
		評価指標 (取組指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
	評価	<p>評定について教員のコメント  <small>*コメントは全員のものではありません。</small></p>	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
①	<p>市民科授業や学校行事、異学年交流を工夫することによって、児童・生徒は充実感を味わっている。</p>	<p>A25% B63% C12% D 0%</p> <p>・異学年の行事の発表を見る生徒の顔がとてもすばらしかった。          ・学校の教育活動全体を通して、児童・生徒に充実感を味わわせるような指導を行っている。</p>	<p>十分な取り組みがなされている。</p>	<p>学年団のつながりが行事を通して強くなり、成長を感じられる。          運動会・学芸発表会では、児童生徒の交流が見られ、ダイナミックな取組なっている。</p>	<p>開校の年から伊藤学園の教育活動の特色の一つとしてい学年交流に取り組んできた。全校児童生徒が参加する運動会のダイナミックさ、低学団の舞台発表を中高学団が見る機会を作っている学芸発表会、5・8年の合同移動教室など、教員が成果を実感している。また、これまでの取組を委員の方々にも認めていただいている。10周年に向け、い学年交流の工夫に取り組んでいく。</p>	
②						
③						
④						

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない